

H26年度 中間評価・革新的研究調査（FS）評価（案）一覧表

【ソフト分野・中間評価】

(H25採択・2年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H26委託額 (千円)	中間評価 (案)*
25-1	6	II	研究名	東京大学 教授 家田 仁	16,000	B
			概要			
25-2	2	III	研究名	京都大学大学院 教授 谷口 栄一	5,778	C
			概要			
25-3	6	I	研究名	東京大学 特任教授 山田 晴利	10,000	A
			概要			

(H26採択・1年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H26委託額 (千円)	中間評価 (案)*
26-2	特	IV	研究名	東京大学 教授 大口 敬	10,000	B
			概要			
26-3	特	IV	研究名	一橋大学 教授 根本 敏則	10,000	B
			概要			

【ソフト分野・革新的研究調査（FS）評価】

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H25委託額 (千円)	FS評価 (案)*
26-1	1	III	研究名	名古屋大学 教授 山本 俊行	10,000	B
			概要			

※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

【ハード分野・中間評価】

(H25採択・2年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H25委託額 (千円)	中間評価 (案)※
25-4	4	II	研究名	道路橋示方書の改定を踏まえた性能設計概念に基づく設計照査手法についての研究開発—特に下部構造物を中心として—	岐阜大学 教授 本城 勇介	8,000	B
			概要	道路橋示方書は、H23年度改定に引き続き、数年以内に性能設計概念の徹底と、部分係数法による設計照査を全面的に導入した大幅改定が予定されている。本研究はこの改定に備え、この概念と手法を全面的に取り入れた、道路構造物への要求の高度化と多様化への対応、建設や維持補修のコストの縮減等を目指した設計照査手法を廻る諸問題に、具体的な解を示すことにより、性能設計の導入の効果が速やかに発揮されることを目的としている。			
25-5	8	II	研究名	繊維シートや鋼板によって補強されたRC部材の再劣化に対する健全度評価法の開発	東北大学 教授 鈴木 基行	13,940	A
			概要	経年劣化した道路橋は、補修・補強されて供用が続けられている。本研究は、繊維シートや鋼板補強によって表面が覆われ、再劣化による変状が目視確認できない桁や床版などのRC部材に対して、非破壊検査法と健全度評価法を開発する。			

(H26採択・1年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H25委託額 (千円)	中間評価 (案)※
26-4	8	II	研究名	表面処理技術を応用した腐食鋼桁端部の性能回復技術に関する研究開発	琉球大学 准教授 下里 哲弘	9,860	A
			概要	本研究では特殊な表面処理技術を応用して、腐食面のブラスト処理、亜鉛粉末を付着した犠牲防食化および腐食凹凸面の平滑化を図り、腐食鋼桁端部に対する効果的かつ高耐久性を有する性能回復技術の提案を目的とする。			

【ハード分野・革新的研究調査(FS)評価】

番号	領域	タイプ	研究名とその概要		研究代表者	H25委託額 (千円)	中間評価 (案)※
26-5	8	II	研究名	高性能鋳鉄床版の開発	九州工業大学 教授 山口 栄輝	9,340	A
			概要	床版に適する高性能鋳鉄の一体成形性と自由形状性を活かした応力集中緩和と溶接レスの実現により、疲労性能の高い安価な床版を開発する。既存RC床版を軽量化な鋳鉄床版に置き換えることにより、既存橋梁の長寿命化及び耐震性の向上を実現するとともに道路拡幅の可能性を高める。			
26-6	8	II	研究名	非破壊試験を用いたコンクリート構造物の表層品質検査システムの構築	広島大学 准教授 半井 健一郎	9,900	D
			概要	これまで直接的な検査が不可能とされてきた、コンクリート構造物の耐久性を支配する表層品質を、非破壊試験の組み合わせによって定量的かつ合理的に評価する新たなシステムを構築し、耐久的な新設道路構造物の建設に資する。			

※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

※FS評価：研究継続の妥当性評価

A: 新規研究として採択	実現性は十分であると評価する。よって、次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B: 新規研究として採択 (指摘事項有り)	実現性はであると評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D: 不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。